

学校における読書活動の推進について【総論】；論点例

1. 「読書」の意義・大切さ

子ども（幼児・児童・生徒）の成長にとって、「読書」はどのような意義をもつのか。なぜ、「読書」が必要なのか。

「読書」することには、どのようなメリットがあるのか。具体的に何の役に立つのか。他のメディア（テレビ、ネットなど）との関係をどう考えるか。「読書」でなければ得られないものはあるか。

（当会議として、）なぜ、子どもの読書活動を推進するのか。

～ 個人の楽しみとしての読書、教養を深める活動としての読書活動、学習活動の一環としての図書による「調べ学習」、社会で生きる上でのスキルとしての読書力（読解力）、...

「読書」の意義、学校における読書活動の重要性について、社会一般に訴えていくために、何をどのように伝えればよいか（メッセージとなる内容・訴え方）。

など

2. 学校における読書活動推進を考える際の視点

最近の子どもの「読書」の実態を、どう捉えるか。

- ・「読書離れ」は本当か（なぜ、読まない（読めない）のか）
- ・子どもたちは、どんな本を読んでいるのか（どんな本なら読むのか）

子どもは、なぜ、「読書好き」/「読書嫌い」になるのか。

- ・どのような環境が「読書好き」の子どもを育てるのか。
- ・「好き」/「嫌い」になるきっかけはあるか。

子どもの読書活動を推進する上での学校の役割は何か。

- ・学校における「読書指導」、「調べ学習」等の意義・成果などについて、どう評価するか。
- ・家庭や地域に対しては、何を求めるか。

「読書好き」の子どもを育てるため、学校、家庭、地域で、いまずぐにできること・取り組める活動はあるか（学校、家庭、地域へのメッセージ）

学校における読書活動推進のための条件整備等の在り方について、どのような視点から検討を進めていくか（第3回会議以降の検討の視点）

など